

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業			
事業名	妖怪狂言～茂山一門の世界～					
目的・内容	恒例となった狂言公演を引き続き開催することで、熱烈的な愛好家はもとより、広く県民に日本の代表的な古典芸能の鑑賞機会を提供する。平成20年度は、夏季に「妖怪」をテーマとした内容で開催し、新たな観客層の関心と興味を引き立てるとともに、3年ぶりに西部地区において開催することにより、当財団の使命である「文化人口の拡大とレベルアップ」及び戦略であるが達成できるものと考えてる。 【使命】「文化人口の拡大とレベルアップ」、「子どもの文化芸術活動の推進」 【事業の柱】「潜在的な鑑賞者の掘り起こしと文化支援者層の拡大」					
開催日時	平成20年8月17日(日) 開演14:00					
会場	米子市公会堂					
入場料・参加費 (友の会)	指定席 5,000円 (4,500円)	自由席一等席3,500円 (3,000円)	foreigner、 中高大学生 1,000円	小学生500円		
集客状況	入場者数	597名	設定席数	1,120席	集客率 53.3%	
事業費状況	予算額	収入	3,163,000円	支出	3,640,000円	収支比率 86.9%
	決算額	収入	2,780,500円	支出	3,192,815円	収支比率 87.1%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不思議でおもしろい言い回しがおかしく、とても楽しい時間を過ごしました。明日からまた元気に仕事が出来るそうです。</li> <li>・茂山一門の狂言は三度目です。茂山千作さんが休演になったのはとても残念でしたが、今回は楽しく観させて頂きました。新作はともに現代風なアレンジで狂言がさらに身近に感じました。ただし、ことば遣いの難しい古典もやはり味わいがある良いと改めて思いました。</li> <li>・ケータリングサービスはとても良いアイデアだと思います。お店でしか食べられないと思っていたので、嬉しかったです。</li> <li>・暑さ対策を考えながら、会場に来ましたが、早めに中に入れ、誘導等も丁寧でかつ適切。「これなら自由席でも安心だ」と思いました。</li> <li>・PR次第でまだまだ舞台の可能性や体感したことのない人々への参加も広がると思います。</li> </ul>					
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点会館のある米子市教育文化事業団と共催開催したことにより、広報など、有効な事業運営ができた。</li> <li>・外国籍の方に日本の伝統芸能に親しんでいただくため、自由席にforeigner席を設け、鳥取大学で留学生対象の「古典芸能レクチャー」を行うなど、新たな広がりがあった。</li> <li>・あたらな取り組みでカフェとのコラボレーションを行い、カフェでの狂言情報の提供、会場へのドリンクコーナーの設置を行うことができ、来場者からも評価を得ることができた。</li> <li>・入場者数は思うように伸びなかったが、アンケート回答者の36%が初めての方という現状を考えても、徐々にではあるが鑑賞者の裾野が広がってきているように思う。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェとのコラボレーション等の新しい取り組みを行うなどで、新規の顧客は獲得できたが、結果として思うような集客につながらなかった。</li> <li>・当日特に大きなクレームはなかったが、出演者の降板等、不測の事態への対応も念頭に置いておかなければならないと感じた。</li> </ul>					
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老若男女、外国人がともに楽しめた、まさに「鑑賞者の掘り起こしと文化支援者層の拡大」は達成できたと思う。</li> <li>・観客満足度は会場の反応から実績(86%)より高いと感じた。2階席への誘導は混乱もなく良かった。</li> <li>・他の事業団、国際交流、学校関連機関等と幅広く呼びかけていく姿勢はとてもいいことだと思う。</li> <li>・販売促進、広報ともに、戦略をしっかりとたてた取り組みであったと思う。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能・歌舞伎・狂言・邦楽等々もっと鑑賞する機会が必要である。</li> <li>・古典芸能に親しみ、更に興味を広げていく鑑賞の機会を継続したい。</li> </ul>					
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も古典芸能の企画を検討していく。</li> <li>・今後も共催などの開催方法を積極的に取り入れていく。</li> <li>・今後も新しい取り組み、新しい角度からのアプローチを取り入れる等の検討を行う。</li> <li>・学校単位での事前のミニ鑑賞会・ワークショップなどプレ事業の開催を検討し、参加者・鑑賞者から公演が広がるような手立ても検討していく。</li> </ul>					